

<研究名称>

離床困難な急性期脳出血患者の肺炎発症要因の検討  
～肺炎発症患者と非発症患者における患者特性と看護ケアの比較～

<実施責任者及び実施担当者>

看護師長 川原 裕子

<研究期間>

1. 研究期間 旭川赤十字病院の倫理審議許可日～2025年8月31日
2. 調査期間 旭川赤十字病院の倫理審議許可日～2025年3月31日

<診療・研究の目的>

急性期脳出血と診断され、SCU病棟入院中に離床できなかった患者から、共通する肺炎発症要因に係る因子（以下肺炎発症因子）を持つ、肺炎発症患者と非肺炎発症患者に対し後方視的に、実施された肺炎予防に効果的とされるケア（以下肺炎予防ケア）の記述を抽出し比較することで、2群の患者の特性や実施された看護ケアに特徴的なパターンの相違を明らかにする

<実施内容（方法）>

基本情報として旭川赤十字病院での口腔ケアおよび摂食嚥下機能療法に関する体制、マニュアル、教育内容について調査する。また、肺炎発症群の対象者において、肺炎発症因子を抽出する。同様の因子を持つ肺炎を発症していない患者を非肺炎発症群として同数選定する。両対象患者に対し過去の診療録より、肺炎予防ケアに関する記述を抜き出しパターン化して比較する。

肺炎発症因子および肺炎予防ケアは、医中誌 Web 版を使用し、2009年～2023年までに発表された脳出血患者を含めた脳卒中患者を対象とした、肺炎発症因子および、肺炎予防ケアについて記述している文献を選定し文献検討を実施し抽出した。

分析方法は、佐藤郁哉の質的データ分析法によるコードマトリックスを用い分析する。肺炎発症群と非発症群の2群に分けて得られたデータを類似する項目ごとに分類してコード化する。縦軸に看護記録から抽出した肺炎予防ケアに関するデータコード、横軸に各事例を置いて、あてはまるセルに文章セグメントまたはその要約を記載してマトリックスを作成する。2群間に相違のあるパターンを見出し分析する。

<危険性（副作用）等>

過去の診療録を使用するため、個人情報の漏洩による不利益が生じないように、情報の取扱いは厳重に行う

<倫理上問題になると考えられる事項>

調査により得られたデータを取り扱う際は、対象者の個人情報保護に十分配慮する。特定の個人を識別することができないよう対象患者に研究用の番号を付与し、対応表を作成するが、特定の個人を識別できる作業には関わらない。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 看護師長 川原 裕子 TEL : 0166-22-8111、FAX : 0166-24-4648